

Some Characteristics Of The Concept Of Creation In The Quran.

especially on the recurrence of creation

(Part One)

SHUNSUKE YOSHIOKA

Through an analysis of the concept of creation in the Quran,
we might expect to find the idea of the recurrence or repetition
of creation.

As the preparatory procedures, in Part One, we will examine
the word " creation " (khalq in Arabic) itself, with the conclusion
of that a creature and each process of that creation have the
unique internal connections.

We will proceed, secondly, to an examination of some important
relations between body and soul in man, with the conclusion of that
body and soul are closely interrelated and are considered almost
one, in the Qūran.

1

カルマーンに見出される《創造》概念の特 色 — 創造の反覆と中心として —

3 9 [I]

吉岡俊輔

《序言》

イスラームは一口で“とは”，アッラーの創
造と讃美の宗教である，といふことは

あるまい。それはヒッピーラーによる劇造とその
の悪が強調されてゐる所である。ニースラ
ークの劇造觀がどうしたくな稽造もつて
るのかとみた。これは極めて雄大な問である
あり、決して一筋縄のものではない。何故なら
、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十
正解に付いて、第三種は廣開と云ふ。今后五年
と遂げゝゝある膨大な生ける知識の集合体を
のであるから。これは範囲とイスラークの原
点であるクルマーンにしほり、クルマーンの

中でも更にまた問題と一点に(ほ)ってYRの
「な作業を行なう」だ。

クリルマーはイスラームの原点としてアッ
ラーの創造と讃美を書くある。創造に関する
多様な啓示の所から、或る一定の表現がクリ
ルマー全篇を通じて 6ヶ所で繰り返されて
いる。この 6ヶ所もほぼ厳密に同じ表現であ
る。①他にこれとほんの少し異なる表現に
ては「それがコンテキストから意味が全く
同じであるものが 7個、表現はかなり異なる
②

ものの同じ趣旨のものが又個ある。二十九
 に一定の表現形式が繰り返されて“まと”^③
 オさに二つ二つが重要であると思われる。そ
 れはいわば“ルハニマド”の口ぐせであり、つまりは思者の習慣であるたゞ考え出ま
 すからである。これで、この繰り返しはさか
 れる一定の表現の意味であるといふべき、クルア
 ーなどと資料として、クルアーンだけの範
 囲内で、いかゆるクルアーンとクルア
 ンを語りこめるやうに整理・検討し出来る

かきこみ 精確に 読みとる = て、 = お = と = お
小説の目的と 1 つ 6 つある。

(一) 一定の表現

CCP-1 全篇を通して 6ヶ所に繰り返え
される一定の表現とは、 *yatda'ū al-khalqa*
thumma yutduhu である。 とりあえずこの
表現のひとつひとつを 車語に最も普通の訳語
とみておこう。 *yatda'ū* = (パッラー) は

始める, al-khalqa == 制造E, thumma ==
 それから, yudhu == それとそとに度す,
 となり従つて, アッラーは創造を始めで、そ
 れからそれとそとに度すといふが、これは記出さ
 れる。この簡略な文句がクルアーンに於ける
 創造觀のか否めと云ひて、いふが、これが
 重要で、アッラーはさか曖昧な文句の意
 味とは云ふ事以下に添へてある。
 まず二の表現が含まれてゐるそれを、この節
 全体と云ふと、10章4節：『汝等（人間は）

ニヒビトクミの處るヒミツはアッラーである
 。これはアッラーの眞実の結束である。詩に
 徒(アッラー)は創造を始めて、そなへども
 れぞもとには良く給ふ。それは信して善を行
 ひとて行ひ天者ハアッラーが正道に朝ハ給ひん
 がためである。そにて信仰を拒んだ者ハ対し
 ては煮湯と飯をヒミツ(アッラの他の)苦渋に充
 て刑罰が(用意されて)あるのである。これ
 はその者達が信仰を拒み続ケ天せりである
 。山、10章34節(35)：曰云之、「汝等がアッ
 ラ

ラーと同列に配られて「まと」の「さ」は「一体誰か
劇透を始めた？」、「さかがうさかども」とは「戻すだ
け」か」と、云々、「アッラーミは劇透を始
めた？」、「さかがうさかども」とは「戻し給う」と
して汝寧は迷わされてしまふのか」と。】、

27章64節(65)：『一体誰か劇透を始めた？
さかがうさかども」とは「戻すのだ」か。また誰
か天と地から汝寧に糧を手えようだ？』
アッラーと並んで他に神があるとは何？』
云々、「もし汝寧が眞実を語るなら」と

『証拠を出せ』と。山, 30章11節(10) : 『アッラーは創造と始めで、それがどうのとも
とにかく。それでアッラーへと詫罪は遣
されま。山, 30章27節(26) : 『従(アッラー
)は創造と始めで、それがどうのとも
に良い給う。それでこれは従にて最も容
易なことである。また天と地のみにて
(鬼のつき得る)最高の聲とは従にさせたも
の。またとにかく従は力強き方、聰明なる方で
ある。山である。